

日本児童英語教育学会

(The Japan Association for the Study of Teaching English to Children)

第1回研究大会 兼 第55回中国・四国支部研究大会のご案内(第2次案内)

日本児童英語教育学会 会長 泉 恵美子

同 中国・四国支部 支部長 平 本 哲 嗣

拝啓 猛暑が続きますが、JASTEC 会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は日本児童英語教育学会中国・四国支部の発展のためにご協力いただきありがとうございます。

さて、本支部におきましては、毎年児童英語教育に関する研究会を重ねておりますが、本年度は JASTEC 2026年度第1回研究大会を兼ねて、来る9月5日(土)に下記要領により第55回中国・四国支部研究大会を開催する運びとなりました。

小学校英語教育に関わる先生方、また、児童英語教育の現場でご活躍の皆様にとりまして、本大会が有益な情報発信と情報交換の場となることを心より願っております。今大会は、オンライン実施ということで、全国よりどなたでもご参加いただけます。JASTEC 会員はもとより、小学校や児童英語教育の現場でご活躍の皆様、また小学校外国語活動・児童英語に関心をお持ちの皆様、どうぞお誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

日 時: 2026年 9 月5日(土)

12:40 受付開始 13:00 開会 17:00 頃 終了予定

会 場: オンライン(Zoom)

※研究大会前日 18 時にメールにて参加用の URL 等をお知らせいたします。

※Zoom の操作方法については、事前に公式の[サポートページ](#)をご確認ください。

参加費: 会員無料(今年度分の会費が未納の場合は、お早めに納入をお願いいたします。)

非会員: 一般 1000 円、学部生無料

※非会員で入会希望の方は、下記申込ページより年会費をお支払いください。

本大会より会員として参加ができます。

申 込: 会員・非会員にかかわらず、事前申し込みが必要です。

[こちらのリンク](#)または[二次元バーコード](#)から申し込みフォームに進み、

必要事項を記入・送信してください。

申込期限 2026年 9 月 4日(土) 17:00

※キャンセルは受け付けておりませんのでご注意ください。

※領収書は、受領証やクレジット決済の証明をご利用ください。

別途必要な場合は、本ファイルの最終ページに示す事務局までお問い合わせください。



第 1 回研究大会 兼 第 55 回中国・四国支部研究大会 プログラム

13:00－ 開会のあいさつ

13:05－13:35 研究発表・実践報告①

小学生の英語発音学習を支えるインフォグラフィックの設計

－ Let's Try!に対応した「英語音声指導マニュアル」を用いて－

発表者：阿部聡生（ネバダ大学リノ校博士課程・京都光華大学）

兼重 昇（大阪樟蔭女子大学），河村 和紀（スタンフォード大学），上斗晶代（県立広島大学）

本研究は、小学生向け ASR 発音練習アプリ「発音チャレンジ」に組み込むインフォグラフィックの設計と教育的活用可能性を検討する。これまで、同アプリの学校環境での実装可能性、発音練習機能（阿部ほか、2026）、Mayer のマルチメディア学習原則に基づく画面の見やすさ（兼重ほか、2026）を検討してきた。一方、ASR による判定だけでは、児童が発音をどのように修正すればよいか理解しにくい。本研究では、調音位置、口や舌の動き、類似音との違い、練習のポイントを直感的に示す視覚資料を試作する。視覚資料は上斗他が作成した Let's Try!に対応した「英語音声指導マニュアル」をもとに作成し、小学校教員向けの情報の正確性、分かりやすさ、認知的負荷、授業での利用可能性の観点から評価し、ASR の判定を具体的な学習行動へつなげる視覚的支援の設計指針を提案する。

13:40－14:10 研究発表・実践報告②

小学校英語につながる書字のつまずきをどう見取るか

－アルファベットも含めた書字を捉える校内研修の試み－

発表者：村尾 亮子（奥出雲町立横田小学校），大谷みどり（島根大学教職大学院）

本発表では、小学校英語につながる児童の書字のつまずきを、日常の学習場面から見取ることの大切さと、その視点を教員間で共有する取組について報告する。これまで、児童の成果物や書字中の様子を教科横断的に捉え、書字の特徴に気付くための視点を検討してきた。そこで、アルファベットも含めた児童の具体的な書字事例をもとに、日常の授業における見取りや支援について考える校内研修を実施した。研修で得られた教員の気付きや意見も踏まえ、小学校英語につながる日常적인見取りと、その視点を学校内で共有することの可能性と課題について考える。

14:20－15:00 全体会 実践報告

公立小学校におけるイマージョン教育実践報告

発表者：彦坂 悠仁 先生（愛知県豊橋市八町小学校）

本発表では、豊橋市が長年培ってきた英語教育の歩みを背景に、令和 2 年度に公立小学校として全国で初めて開設された八町小学校イマージョン教育コースの実際の様子を紹介する。通常学級との併設型という環境の中で、日本人教員と外国人教員による二人担任制の協働授業や、日本語と英語を柔軟に往還する「トランスランゲージング」を取り入れた日々の指導の工夫、国際的な英語能力テストを活用した客観的な学習到達度の成果や、持続可能な公立モデルを目指す上での現場の課題についても触れながら、子どもたちの確かな学びと共生の心を育む教育実践を報告する。

15:00－15:10 休憩

15:10－16:40 講演

AI は誰が使うべきかー小学校英語における個別最適と協働の再考ー

講師：水本 篤 先生 （関西大学 外国語学部・外国語教育研究科 教授）

本講演では、小学校英語教育における AI 活用について、「誰が、何のために使うのか」という観点から再検討する。近年、AI や ICT は、個別最適な学びや協働的な学びを支える手段として期待されているが、それらが必ずしも児童による AI 使用を前提とする必要はない。AI が即座に表現や答えを示すことで、クラスメートや教師との意味のあるやりとりの機会が減る可能性もある。本講演では、ICT 一般と生成 AI の違いを整理し、児童による AI 利用の教育的妥当性、発達段階との整合性、依存や過信のリスクを検討する。一方で、教材作成、課題の難易度調整、つまづきの予測、発話活動の設計、授業後の省察など、教師による AI 活用の可能性を具体的に示す。人と人とのやりとりを学びの中心に据え、AI を授業の前面ではなく、教師の判断と授業設計を支える「裏方」として位置づけることで、小学校英語にふさわしい AI 活用のあり方を提案する。

16:40－16:45 閉会のあいさつ

【お問い合わせ先】

JASTEC 中国・四国支部事務局

〒731-0295 広島市安佐北区可部東一丁目 2 番 1 号

広島文教大学 戸井一宏 研究室内

E-mail: jimukyoku@jastec-cs.com